

# 日報を読んで

## 紙面批評

# 読者の広場



紫波町 町体協主事  
山 英恵(31)

世界中が息を詰めて見守った2016年夏季五輪の開催都市は、ブラジルのリオデジャネイロに決まった。本紙は10月3日の朝夕刊で国際オリンピック委員会(IOC)総会の結果を大きく報道していた。南米での五輪開催は史上初となる。東京は1964年以来の2度目の五輪招致を目指したが、残念ながら落選してしまった。地元的支持率が4候補都市で最も低かったことが最大の敗因だとい

スポーツライター玉木正之さんの「識者評論(10月5日付朝刊)を興味深く読んだ。南米初というインパクトに対し、同じ都市で2回目の開催を目指した東京。招致が決定した瞬間のブラジルの人々の歓声、喜びの笑顔とは対照的に、日本の関係者やサポーターの大きなため息と、紙面に写真が掲載された高橋尚子さん、鈴木大地さんらの落胆した表

情が今でも印象に残る。今回の16年五輪開催招致に挑んだ東京落選の発端を、わたしたち県民はどのように受け止めたのだろうか。県民の声を集めて紹介できれば、本県の関心はさらに高まったのではない。水曜日夕刊に三ヶ田礼一さん(具体協スポーツ特別指導員)の連載「金メダリストのひとりごと」がある。10月7日は、三ヶ田さんが五輪出場を目指したきっかけが記されていた。72年札幌五輪において、70級ジャンプで日本は金、銀、銅のメダルを独占という快挙を成し遂げた。その金メダリスト笠谷幸生さんの講演会

に小学5年の時に参加し、一言声を掛けてもらい、とても感動したことで、将来五輪に出場したいと意識したという。わたしは現在、幼児や小学生のスポーツ指導に携わっているが、三ヶ田さんが五輪を目指したきっかけのように、人生の糧となる人との出会い、競技との出会いは子どもたちにとって、とても大切なと思う。わたし自身も今までに「出会っていないければ、今の自分はない」と思うきっかけがえのない指導者との出会いがあった。出会いは、子どもたちの無限の力を引き出し、将来の夢への後押しや橋渡しにもつながる。子どもたちに多くの夢や感動を与えてくれるオ

リンピック。この国際的なビッグイベントを、将来の子どもたちのためにも、ぜひ日本で開催してほしい。実現するためには、報道の担い役割は非常に大きい。「16年夏季東京五輪」は幻となったが、同年には本県でも巡目国体の開催が予定されている。7年後に迫った岩手国体への県民の意識と関心は少しずつ高まりつつあるが、県や市町村、競技団体、地域などで行われている競技の普及や、選手育成・強化などの取り組みに関する情報提供が少ないように感じている。岩手国体に向けての県民の期待や夢、声なども多く紙面で取り上げていただき、県民一丸となって盛り上げていきたい。

# 岩手国体盛り上げて